

自 己 評 価 表

愛媛県立松山東高等学校 №1

学校番号 (20)

教育方針		重点目標		生徒を励まし可能性を広げる教育の実践	
<p>1 高い知性と豊かな創造性を身に付け、新しい文化の発展に貢献する人間を育成する。</p> <p>2 高い道義心と公正な判断力を身に付け、人類の福祉増進に寄与する人間を育成する。</p> <p>3 たくましい気力・体力を身に付け、平和な国家社会の実現に努力する人間を育成する。</p>		<p>徹底した個人面接・個人指導を通して</p> <p><育てたい人物像></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己を鍛え、困難に打ち勝つ力（レジリエンス）を備えた社会に貢献できる人材 ○個性を伸ばし、自他ともに尊重する人間的魅力のある人材 ○輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、グローバル社会で活躍できる人材 <p><生徒に身に付けさせたい力></p> <ul style="list-style-type: none"> ○高い志を持ち、自らを律して粘り強く努力する力 ○自他の長所を認めあい、高めあう力 ○世界的視野を持って考え、行動できる力 		<p>生徒を励まし可能性を広げる教育の実践</p> <p>- 徹底した個人面接・個人指導を通して -</p> <p><育てたい人物像></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自己を鍛え、困難に打ち勝つ力（レジリエンス）を備えた社会に貢献できる人材 ○個性を伸ばし、自他ともに尊重する人間的魅力のある人材 ○輝かしい伝統を受け継ぎ、新たな創造を切り拓く、グローバル社会で活躍できる人材 <p><生徒に身に付けさせたい力></p> <ul style="list-style-type: none"> ○高い志を持ち、自らを律して粘り強く努力する力 ○自他の長所を認めあい、高めあう力 ○世界的視野を持って考え、行動できる力 	
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学校経営	教育目標達成のための実践	本年度の重点目標の達成に向け、創意工夫しながら実践に励む。担任による個人面談を1、2年生一人年間10回以上、3年生一人年間15回以上を目指す。 A：10回以上 B：9回 C：8回 D：7回 E：6回以下 A：15回以上 B：14～13回 C：12～11回 D：10～9回 E：8回以下	C	9クラス中、1年生では、目標達成の担任は2名、平均回数6.6回。2年生は2名、平均回数は6.3回であった。一方、3年生は目標達成の担任が6名、平均回数は13回（最高18回）であった。それぞれD、E、Bという評価となるが、少ない時間でも生徒と個別に面談をするという姿勢にはつながった。	年度始めの臨時休業中にも、生徒が「学校から切り離されている」という感情を持たないよう、担任は、電話等で生徒と連絡をとっていた。個人面談は、生徒一人ひとりと向き合ううえで、最も効果のある方法の一つである。特に、おとなしく目立たない生徒が、「学校は常に自分のことを考えてくれている」と思えるためにも、個人面談の意義に対する共通理解を深め、目標の達成に努めたい。
	働き方改革に対する教職員の意識改善	目標チャレンジ制度を活用し、働き方改革に関する個人目標を設定し、その達成に向けて努力することで意識の改善を図る。自己評価において、全員がおおむね目標を達成できていることを目指す。	C	全教職員が自らの目標達成に向けて努力した結果、残業時間の総量では、大きく改善されてはいないものの、休める時には少しの時間でも休暇をとると意識にはつながった。	来年度から一人一台の端末を持つようになる。このようなICT機器の活用も含めて教員の働き方を変えていきたい。教員が多忙であると、生徒の話をじっくりと聞くための時間がとれなくなり、教育相談の面でも問題となる。教員が無理なく生徒と向きあう時間を確保するためにも、働き方に対する意識改革をより進めたい。
	円滑な組織運営	業務の精選と情報の共有化を図り、連携協力しながら自己の評価ポイント平均8.5以上を目指す。 A：8.5ポイント以上 B：8.4～8.3ポイント C：8.2～8.1ポイント D：8.0～7.9ポイント E：7.8ポイント以下	B	教育目標の実現に向けた実践、職員会議などへの主体的参加、学校運営への協力、校務分掌における連携協調に対する自己評価はすべて8.6以上であったが、保護者や地域への情報発信の面では7.2の評価であった。	保護者に対するアンケートにおいても、ホームページに対する保護者の満足度が低く、学校評議員会・学校関係者評価委員会でも取り上げられた。「毎日更新されなければHPではない」と考え、作成のポイントを簡単にして、学年・部活動を中心に更新できるようにするとともに、管理職による承認もスムーズに行えるようにしたい。
	事務の適切な執行	施設設備の維持管理を計画的に行い、公費と私費の効率的な執行を通して学校経営に参画する。	B	今年度は、教育活動に制限があったが、柔軟に対応できた。公費は遠隔教育や保健衛生に関する予算の、迅速な執行ができた。私費は備品購入や施設の修繕に重点を置き、学習環境を整えることができた。	引き続き、短期的な計画と長期的な計画を立て、効率的な予算執行することにより、積極的に学校経営に取り組む。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

自 己 評 価 表

愛媛県立松山東高等学校 №2
学校番号 (2 0)

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	家庭学習の充実	1、2年生は180分以上、3年生は330分以上の家庭学習習慣を形成し、主体的に学ぶ力を身に付ける。 A：180分以上 B：160分以上～180分未満 C：140分以上～160分未満 D：120分以上～140分未満 E：120分未満 A：330分以上 B：310分以上～330分未満 C：290分以上～270分未満 D：270分以上～290分未満 E：270分未満	C	1年生の家庭学習時間は2月の調査時では151分、2年生は171分であった。3年生は10月の調査時で321分であり、どの学年も目標を達成することはできなかった。2年生においては目標達成まであと少しであった。	生徒が主体的に家庭学習に取り組み、充実させるためには、それが授業の理解や知識・技術の向上につながる実感が必要である。家庭学習と授業内活動を連動させるような課題の与え方や自主的に取り組めるような目標の与え方を研究していきたい。
	教科指導の充実	授業公開週間や各教科の研究授業を活用し、相互授業参観を積極的に行って、各教員の授業力向上を目指す。	B	「えひめ教育の日」の公開授業や相互授業参観週間、各教科の研究授業などの機会を活用し、お互いの授業を参観して授業改善に努めた。	生徒一人一人にPCが配布される次年度、ICTを有効に活用して学習効率を高めるための授業改善を各教科で行っていききたい。また、自校内や他校の参観授業など校外における研修の機会を最大限活用して、教員一人一人が授業力向上に努めたい。
生徒指導	交通安全指導の充実	学校と保護者・地域の方々との連携を深め、安全通学への啓発活動を積極的に推進していくとともに、交通ルールの遵守とマナーアップの向上を図る。特に「自分の身は自分で守る」の教訓を生かし、年間の交通事故の件数を15件以下にするよう指導する。	B	校外から交通マナー（自転車通学のマナー）についての指摘は減少したが、交通事故の件数については、16件で目標を上回ってしまった。大事故にはならなかったが、交差点での接触事故は多い。事故処理は、適正にできていた。	交差点での事故を減らすために、一時停止・徐行など交通規則の順守を徹底させ、事故件数を15件までにしていきたい。また、自転車のみならず公共交通機関での乗車マナーなど社会に適應できる人間としての意識を高める教育を推進したい。
	基本的生活習慣の確立	集団生活に必要な規範意識の向上を図り、自律する能力を培い、基本的生活習慣をより一層自分に合ったものにするよう具体的な行動目標を設定し、実行させるよう指導していく。1か年皆勤率を60%以上とし、10分前行動の徹底を図る。 A：60%以上 B：59%～55% C：54%～50% D：49%～45% E：45%未満	B	8:15を過ぎて登校する生徒が減少するなど、基本的生活習慣が身に付いてきたように思われる。しかしながら、まだ十分とは言えず、今後、より一層の指導が必要である。	基本的生活習慣について考える機会を持たせ、登校時刻を5分早くするなど、時間にゆとりが持てるよう家庭に協力を要請する。「朝の読書」時には、全員が登校できているよう指導をしていきたい。身だしなみ等の自律については、生活自律週間において、各H/Rを利用して、意識を高める指導をしていきたい。
進路指導	進学指導の充実	東大、京大等の国立難関大学、国公立大学医学部医学科の合格者数80以上 A：80名以上 B：79～70名 C：69～60名 D：59～50名 E：49名以下 (現役生の合格者数では、国立難関10大学50名以上、国公立大学医学部医学科10名以上を目指す)	B	東京大の合格者数は5名、京大の合格者数は、10名であり、国立難関大学と国公立医学部医学科の合格者は、それぞれ56名と15名であり、難関大合格者は71名である。また、現役生の合格者数は国立難関10大学41名、国公立医学部医学科9名と大学入試改革及びコロナ禍という状況において健闘した。	二次力向上に向けて、基礎基本の定着を図り、早期に国数英の学力の向上に努める。そのために、1・2学年における弱点教科、特に数学の学力向上を行う。教科や学年など教員の組織力を高め、常に二次の学力強化を意識して、過去の入試問題の対策を行い、個に応じたきめ細やかな指導を行う。また、少々のスランプにも負けない精神力を育成し、基本的生活習慣を確立する。医学部医学科入試に挑戦させるため、コミュニケーション力の育成を図り、小論文対策を充実させる。1年次から、松山東高生であることを自覚させ、目標を高く持たせて学習する意欲や態度を醸成させる。
		早稲田、慶応、上智、関関同立等、私立難関大学延べ合格者数250名以上 A：250名以上 B：249～230名 C：229～210名 D：209～190名 E：189名以下	A	早稲田大14名、慶応大4名、国際基督教大3名、同社大73名、立命館大113名、関西大22名、関西学院大32名であった。私立難関大延べ合格者数は329名である。私立大学の定員厳格化や安全志向の影響、さらにはコロナ禍による地元志向の中で、合格者が増加となったことは一人一人の成果である。高い目標を持って、広い視野で挑戦できたと言える。	私立難関大合格者は、国立難関大志望者でもある。目標の難関国公立大の合格に向けて、共通テスト対策では各教科ともバランスのよい学習をさせること、二次試験対策においては国数英の各教科において、論理的思考力を身に付けさせるなど、最後まで目標を高く持って、受験教科を早くから絞らせないようにする。
		国公立大学合格者数250名以上 A：250名以上 B：249～230名 C：229名～210名 D：209名～190以上 E：189以下	C	前期試験合格発表時点で、国公立大合格者数は211名である。現役生において、広島大や岡山大など中堅大学は昨年度に比べ増加し、健闘した。また、コロナ禍の影響もあるのか、地元愛媛大学が大幅増となった。	入試は団体戦であるので、学校の進路指導方針を徹底し、教員の意識統一のもと、粘り強い指導を継続していきたい。生徒にも松山東高生であることを自覚させ、東京大や京都大など難関大学や医学部医学科の合格者数を伸ばしたい。また、基本事項を正確に把握し、題意を正しく把握するための読解力を養うなど、基礎・基本の定着に向けて指導を徹底し、岡山大・広島大等の中堅大学の受験者数・合格者数も増やしたい。共通テストと二次試験のバランスを考えた指導を心がけていきたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
特別活動	ホームルーム活動の充実	主権者教育など新しい内容を研究し、さらに発展した活動が展開されるよう担任を援助するとともに、生徒の自発的・自治的活動を助長し、より良い人間関係を形成できるホームルームを確立する。	A	各ホームルーム担任の創意工夫とリーダーとなった生徒のアイデアなどにより、本校の特色を生かしたホームルーム活動が概ね展開された。また、ホームルーム活動を基本としてより良い人間関係を構築することができている。	道徳教育や人権教育など柱となるホームルーム活動をより充実させたい。そのために人権教育課などとの連携をさらに深めていく必要がある。より計画的かつ系統的な活動が展開されるように学年主任や各ホームルーム担任を支援していきたい。
	生徒会活動の充実	生徒会執行部の役割を明確にし、さらに自主的な活動ができるように支援していく。そのためにも特活課員との連携をさらに深めていく。また、生徒会委員会をより活性化し、より生徒が主体となった生徒会活動が展開されるよう支援していく。	B	新型コロナウイルス感染症により、例年と異なる環境の中で特別活動を担当する教員と生徒会執行部との連携が不十分な場面があったが、生徒会執行部は積極的に活動することが出来た。また、生徒会委員会の活動も生徒主体の活発な活動がなされてきている。	担当教員の役割を明確にし、生徒会執行部との連携を深めていく。
	学校行事の充実	学校行事の特性や狙いを明確にし、本校ならではの伝統的な校風を継承・発展させる。また、集団の中でリーダーシップやフォロアシップを発揮させるとともにマナーアップを図る。そのために生徒が学習活動や部活動とのバランスをとり、積極的に取り組めるような支援も行っていく。	B	新型コロナウイルス感染症予防のため実施できなかった行事や様々な制限の中で行った行事もあったが、教職員や生徒の協力により、充実した活動が行われた。	各種行事を、その意義を再確認しながら継承し、生徒たちがリーダーシップとフォロアシップを学び学校の一員としての役割を自覚させたい。また部活動とのバランスに留意し、学校行事に参加しやすい環境を整えるために、部顧問とも連携していきたい。
	部活動の充実	部活動を通じてより深い人間関係を構築させる中でより専門的な知識・技術および総合的な人間力を身に付けさせる。また、学習活動や学校行事との両立・バランスを考慮しながら顧問と生徒が一体となった質の高い文武両道が実践できるよう援助していく。	B	文武両道を目指して掲げる本校の伝統のもと、限られた時間の中で生徒主体の活発な活動がなされている。また、新型コロナウイルス感染症予防のため様々な制約のある中でも充実した活動がされており、成果を上げている。	本校伝統の「質の高い文武両道の実践」を継承していく。そのために顧問と生徒の意思の疎通を深め、「効率的な活動」を推進していく。本校の「部活動における方針」をもとにまた、総合的な人間力の育成に重点を置き、毎日の活動を充実させたい。
保健・安全管理	健康教育の充実	生徒一人ひとりの健康状態を確実に把握し、健康の維持・増進を図るとともに、健康診断結果による事後措置の徹底を図る。生徒保健委員会活動を充実させ、リーダーとなる生徒を育成することにより、全校生徒の保健意識の向上を目指す。	B	健康診断、保健調査及び面談等を通して、生徒の健康状態の把握に努めた。生徒保健委員会については、年間を通して様々な活動に取り組ませたが、やや主体性に欠ける面もみられた。	生徒の健康状態については、校務系をできるだけ活用し、担任とも連携を密にしたい。保健委員会活動においては、毎回の委員会を生徒委員長主体で行わせ、積極的に取り組ませたい。
		保健だよりや保健講話、保健指導の機会を生かして、健康に関する知識・関心を向上させるとともに、自らが管理・改善していく実践力を身に付けさせる。	B	6月に本校卒業生でもある講師による保健講話を行った。事後アンケートで、ほとんどの保護者・生徒が役に立つ内容だったと回答しており、今後の生活に生かしていける内容であった。	本校生徒の実情、本校生徒の抱える問題を把握した上で、より必要性の高い保健講話を実施する。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
保健・安全管理	教育相談の充実	定例会・臨時会で生徒の状況について協議し、学年団と連携して組織的に対応する。生徒の情報を共有するとともに、アンケート調査を学期に1回行い、担任を中心とした個別指導を充実させるとともに、配慮を要する生徒への迅速で的確な指導・助言を行う。スクールライフアドバイザーや臨床心理士を計画的に活用する。	B	定例会で生徒の状況について協議し、学年団と連携して組織的に対応した。学校生活アンケートを学期に1回行い、個別指導を充実させるとともに、配慮を要する生徒に迅速に指導・助言を行うとともに、継続的に指導の必要な生徒については、連携して指導に当たった。スクールライフアドバイザーや臨床心理士を計画的に活用した。	スクールライフアドバイザーの来校曜日を6限授業のために放課後の時間にゆとりのある、水曜日に変更して、より多くの生徒の来談に対応できるよう整備する。「教育相談だより」などを通じて、生徒・保護者への啓発と情報提供を行う。
		生徒が安心して学校生活を送り、自己肯定感を持って学業に励み、自己実現を図ることができるように、職員研修会や特別支援教育校内委員会を通じて生徒指導に関する共通理解を図り、教育相談に関する知識・技能を高める。	B	職員研修会や特別支援教育校内委員会を通じて生徒指導に関する知識・技能を高め、生徒指導に生かすことができた。教員全体の意識が向上した。	「教育相談だより」や研修を充実させて、教員の意識と知識・技能をさらに高める工夫をする。
	環境の整備と美化の推進	ゴミの分別をしっかりと行い、ゴミのない学校環境をつくる。	B	年度当初に、美化委員会でプロジェクターを活用し「ゴミの分別クイズ」を行った。そのかいあって、生徒の意識が高まった。	生徒の意識を高めるとともに、教職員へのゴミの分別、削減についての理解と意識の統一も必要であると感じられた。
		掃除用具や備品を定期的に点検・整備し、整理整頓することで、効率の良い清掃活動に取り組めるようにする。	B	掃除用具入れの清掃・点検を定期的に美化委員で行った。各清掃場所の用具の数を一覧表にし、管理を徹底した。	清掃用具の扱い方や、入れの仕方についても、美化委員を通して生徒や教職員に徹底する。
		環境美化に関する意識を高めることで、生徒自らが清掃活動に取り組もうとする学校を目指す。	B	美化委員会を中心に、清掃時間だけでなく、HR活動の奉仕作業や郊外のボランティアにおいても、自主的に活動する場面が多々見られた。	公共の場所において、環境美化の意識は欠かさないものであり、HR活動においても適宜指導する必要がある。
	危機管理の徹底	危機管理マニュアル・防災避難訓練のあり方を随時見直し、発災時を想定した地域との連携を図り、安全な学習環境の構築と安全教育に努めて、災害・事件・事故発生時に迅速・的確に対応できるようにする。	B	危機管理マニュアルの見直し、備蓄品の入れ替え・補充、危険個所のリストアップと補強、避難所開設に関する地域との連携等、学校安全を推進することができた。	危機管理マニュアル・防災避難訓練のあり方を随時見直すとともに、教職員間で知識を共有できるしくみを作る。地域との連携を図り、防災意識の高揚と安全な学習環境の構築に努めて災害・事件・事故発生時に迅速・的確に対応できるようにする。
人権教育	人権問題学習の充実	「部落差別の解消の推進に関する法律」の趣旨と内容を生徒・教職員に周知徹底させる。	B	人権・同和教育ホームルーム活動で取り上げてもらい、生徒への周知は図ったが、教職員の研修は実施できなかった。	引き続き、研修の機会のたびに、この法律の内容理解と課題についての周知徹底を図りたい。
	人権教育研修会の充実	新聞記事を中心に人権に関する資料作成に力を入れ、教職員に配布する。	B	人権NEWSとして毎月、生徒用に掲示し、人権委員からの呼びかけも行ったが、教職員への配布は一部にとどまった。	人権NEWSをPDF化して配布するなど工夫したい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
図書活動	読書指導の充実	「朝の読書」の目的を理解させ、読書に臨む意識を高める。図書委員による「読み聞かせ」をさらに充実させ、読書会を活発にする。	A	「朝の読書」の日常化が図れた。新型コロナの影響で1学期の「読み聞かせ」が中止となったが、秋以降実施できた。	「朝の読書」の一層の充実を図り、合わせて教職員にも「朝の読書」を広めていきたい。
		啓発活動を継続して行い、一人一か月2冊の読書を奨励し、学校全体で年間20,000冊以上の読書を実践する。 A : 20,000冊以上 B : 19,999冊～18,000冊 C : 17,999冊～16,000冊 D : 15,999冊～14000冊 E : 13,999冊以下	A	読書冊数は増加し、20,000冊以上の目標を達成することができた。コロナ禍による自粛の影響も大きいと思われる。	継続して啓発活動を継続的に行うとともに、新型コロナの影響が改善されれば、各種イベントへの参加も呼びかけていきたい。
	図書館活動の活性化	委員会活動を活発にし、毎月発行の「図書館だより」や年3回発行の「図書館報」の内容充実を図り、図書館活動を活性化させ、生徒・教職員の図書館利用を増やす。	C	積極的に委員会活動を行ったが、コロナ禍の影響で、図書館を利用する生徒は伸び悩んだ。	図書館利用の啓発に努めるとともに、魅力ある図書を増やし、快適な環境を維持したい。
現職教育	校外研修の充実	他校への学校訪問と授業公開への参加を呼びかけ、積極的な参加を促す。さらにその報告会を実施することで、情報の共有を促す。	C	コロナ禍による研修の中止や短縮の影響を受けた。オンライン研修など、代替の研修に参加した。	オンライン研修等、校外研修のあり方が見直されると思われ、変更に対応しながら効果的に研修に参加していきたい。
	校内研修の充実	昨年度の学校訪問研修の成果をふまえ、主体的・対話的な深い学びになるよう授業内容や授業方法の改善など研究に取り組む。校内研究授業、相互授業参観週間を効果的に生かし授業改善に努める。	C	コロナ禍の影響で、アクティブラーニング等の活動に制限はあったものの、ICTを活用した授業に取り組んだ。	より一層ICTを活用した授業を展開するとともに、主体的・対話的な深い学びになるよう授業内容や授業方法の改善を図りたい。
PTA活動	PTA活動の充実	総務・文化・生活指導・保健厚生・進路指導の各委員会の理事を中心に意欲的に行われているPTA活動を、一般保護者が参加しやすい活動を模索し、活動の益々の活発化を図ることで、生徒にとってより良い教育環境を作ることを目指したい。特に今年度はコロナウイルスの影響による活動の縮小が図られているが、内容の充実度は維持したい。	A	コロナウイルス感染症の影響がある中、各委員会とも数少ない活動において意欲的に企画・活動が行われた。役員を中心に充実した活動を実施できていた。一般保護者も制限中、例年よりは少ない数であったが参加いただけたのは良かった。	コロナウイルス感染症の拡大が沈静化し活動が平常に戻った時、PTA役員研修や文化祭・運動会での催しにおいて、本年度行った改善策を生かした活動としたい。また、従来からの課題である一般保護者が参加しやすい、より良い教育活動を模索・展開していきたい。
		「明教通信」「明教便り」によって、保護者に必要な情報を確実に伝えるとともに、本校保護者の本校教育への興味を喚起したい。	A	コロナウイルス感染症の影響で行事が制限された中、各媒体とも工夫して発行されており、保護者に生徒の活動予定、状況が的確に伝えることができた。	本年度を良い機会とし、従来を見直すとともに今後の在り方を検討し、本校の魅力をより伝えることができるよう更なる内容の充実を図りたいと考えている。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。